「おこしやす 歴史育むふるさとへ」

第29回全国土地改良大会 京都市で10日開催

全国土地改良事業団体連合会（野中広務会長、全国水土里ネット）と京都府土地改良事業団体連合会（野中広務会長、水土里ネット京都）は10日、京都市左京区の国立京都国際会館で、第29回全国土地改良大会を開く。「おこしやす 歴史育むふるさとへ～いにしえの時空（とき）を越えて今、伝えたいことがあります～」のテーマの下、関係者約4300人が参集。農業・農村の重要性と地域農業を支える「水土里ネット（土地改良区）」の役割を広く国民にアピールするとともに、地域住民の意向と環境との調和への配慮など、新たな視点に立った農業農村整備事業の展開を確認し合う。

全国から約4300人

第29回全国土地改良大会（京都大会）では、本大会の前に多彩な記念イベントを開催するのも大きな特色だ。

既に8月から府内の6コースで「水土里の路（みち）ウォーキング」を実施。これは、参加者に心やすらぐ農業用水路や美しい農村景観を楽しみながら、地域の歴史や文化に接してもらうのが目的だ。

また、大会開催前日の9日には、JR京都駅ビルを会場に「水土里フェスタ」が行われ、府内各地の郷土芸能が披露されるほか、市町村特産品の販売、スタンプラリー、「水土里の路ウォーキングⅱ巨椋池」コースのゴールインなどを予定。地元KBS京都ラジオの公開生放送もある。パネル展示は7日から10日まで行われる。

さらに、大会式典の中の大会宣言は、府立高校（農業関連学科設置校）の男女生徒2人が行うことになっている。

◇

21世紀土地改良区創造運動大賞（以下「21創造運動大賞」）が本大会で表彰される。21創造運動を創設して4年目になる今回、大賞を受賞した12の水土里ネットの中には、21創造運動が全国的にスタートした平成13年度以降に初めて誕生した運動や、それ以前から長年にわたり継続し取り組まれてきた運動、従来の運動から一歩を踏みだした独創性、継続性のある運動が選考されるなど、21創造運動への取り組みが徐々に全国へ浸透、拡大してきている傾向が伺えるものとなっている。

受賞地区の運動の特徴としては、水土里ネット内部に21創造運動に関する組織を立ち上げ、明確な目的意識のもと体系的に運動に取り組んでいるもの、水土里ネットが企業や地域住民組織と協定を結び維持管理活動を展開しているもの、多種多様な団体と連携し水質保全や環境再生に取り組んでいるもの、総合学習と連携させることにより運動の理解が広がっているもの、また歴史や伝統文化を水土里ネットが中心となり伝承していくものなど、多岐にわたっている。

平成18年度の21創造運動大賞

受賞地区	都道府県	副題
水土里ネット北見	北海道	地域創造プランナー
水土里ネット稲生川	青森県	歴史交流イノベーター
水土里ネット胆沢平野	岩手県	地域の輪クリエーター
水土里ネット長野堰	群馬県	歴史伝承プロモーター
水土里ネット亀田郷	新潟県	地域創造エキスパート
水土里ネットえな	岐阜県	世代の輪クリエーター
水土里ネット宮田用水	愛知県	都市との共生フロンティア
水土里ネットしんあさひ	滋賀県	水質保全チャレンジャー
水土里ネット板名	徳島県	水辺交流プランナー
水土里ネット古高松	香川県	ため池環境チャレンジャー
水土里ネット一の宮	熊本県	流域連携プロモーター
水土里ネット高千穂	宮崎県	資源の守人パイオニア

大会宣言 豊かで美しい農村を次世代に

私たちのふるさとは、安全な食料を安定的に供給し、国土や自然環境の保全、美しい景観の形成、文化の伝承など、国民生活になくてはならない様々な機能を持っている。

空からの恵みの雨は、山に蓄えられ、やがて川となり下流へ流れる。先人たちはその山を手入れし、道なきところに道をつけ、田畑を切り開いてきた。

ある人はため池を造り、またある人は川を堰き止めることにより大切な水を農作物や生活に利用した。農地へ導かれた水は田畑を潤し、先人たちはその水を分け合うことにより地域農業を育んできた。

このようにして人々は地域社会を作り、農地や水・農地を守ることにより食を確保し、洪水を防ぎ国土を保全してきた。また、農村を形成し、農作に感謝する鎮守の祭りや祈りを通じて日本の伝統文化を創り上げてきた。

まさに、水・土・里は日本の地域社会と日本の文化をつくってきた。

しかし、今、私たちのふるさとはこれまで経験したことのない社会構造の変化に直面している。

近年、農山村地域では過疎化や高齢化に加えて混住化が進み、農山村社会全体の力が弱くなり、先人が築き上げてきた数々の農村資源の維持が難しくなってきている。そのため、本来農村地域が持っていた環境や防災の働きが急激に衰えてきている。

今こそ、先人たちの残した農地・水・文化などの財産をしっかりと未来に引継ぎ、農村社会を再生する力をよみがえらせるために活動しなければならない。

都市の人たちが田んぼの畦に触れ、棚田を眺め、実りに接することで農業、食料の大切さを知る。都市と農村の交流を通じて、都市の人たちは農村の素晴らしさに気づく。農業、農村に触れ、なじみ、とけこむ。そこからふるさとを愛し、地域を愛する気持ちが生まれ、育まれる。

農業や生活の営みを支え、美しい自然を形づくってきた大切な「水」。国民の命を守り、国土や自然環境を保全して、その機能を発揮する「土」。都市と農村の交流、地域、国土そして文化を守り伝統を育む「里」。

もう一度、私たちは水を、土を、そして里を考え、日本の地域社会を伝統・文化が「米づくり」「稲作の祈り」から生まれてきた歴史と、私たちの故郷である農地や水や農村を守るとともに、地域や都市の人たちとともに全力で取り組み、豊かで美しい自然景観に育まれた農村を次の世代に伝えていくことを、ここ京都において宣言する。

平成18年10月10日

第29回全国土地改良大会

今年の会場となる国立京都国際会館（京都市左京区）

開催地あいさつ

水土里ネット京都副会長 田中 英夫

第29回全国土地改良大会京都大会に、全国各地からこのように多くのご参加をいただきありがとうございます。

また、公務ご多用のところ国会議員、農林水産副大臣様をはじめ農林水産省幹部の皆様、山田啓二京都府知事様、桝本頼兼京都市長様など多数のご来賓にご臨席を賜り、華やかに、かつ盛大に開催できますことを深く感謝申し上げます。京都府連合会の野中会長は全国連合会の会長でもありますので、副会長の田中がかわってあいさつさせていただきます。

今年の大会は「おこしやす 歴史育むふるさとへ～いにしえの時空を越えて今、伝えたいことがあります～」をテーマに開催いたします。

1200年余の悠久の歴史に培われたここ京都は、豊かな自然が人々の暮らしや産業と深く結びつき、自然との共生の中で発展を続けてきました。また、古きものを慈しみ、新しきものを育む気風が、伝統に培われた豊かな文化を醸成させるとともに国内外の文化を進んで取り入れ、融和させ、京都ならではの文化を創造してきました。

鴨川、東山が美しい水と緑をつくり出す京都盆地の自然環境と併せて、何気ない風景と優雅に裏打ちされた歴史が感じられ、お越しの皆様には新鮮な驚きと感動を体験していただけると思います。

日本の国土の美しさは、よく「山紫水明」と讃えられます。山紫水明が京都の枕詞となっているように、水に恵まれた日本の中でも、とりわけ京都は水の豊かなところです。

日本書紀に、「山背国栗隈県（やましろのくにくりくまのあがた）に大溝を掘り、田を潤す」と記されており、京都では4世紀頃から大規模な農業用水事業が行われ、多くの集落と人々の暮らしが確立、以来今日まで人と水が関わり共生する中でやさしい自然に恵まれた素晴らしい地域社会を築いてきました。

まさに京都は、いにしえ人が育んできた豊かな資源そのものです。

今、新たな「食料・農業・農村基本計画」の中で、国民共有の財産である農地・農業用水の整備や豊かな農村環境を良好な状態で次世代に継承していくため、「農地・水・環境保全向上対策」の推進に全力をあげて取り組んでいるところです。

今こそ先人たちが残した水土里を後世とともにしっかりと未来に引き継いでいこうではありませんか。

本日、全国各地からお越しいただいた皆様には、式典の前に、「平安の舞」を観ていただきます。京都独特の伝統芸能をお楽しみいただけたらと思います。

また、明日からは各種視察も行われます。京都、山城、丹波そして丹後とそれぞれ特色のある地域でありますので、是非、この地の風土に接していただき、肌で感じていっていただきたいと思います。

終わりに、今回の開催のために、熱意のご指導、ご支援を賜りました関係各位に心より感謝申し上げ開催地としてのご挨拶といたします。

地域資源の保全に全力

全国水土里ネット会長 野中 広務

今大会のメインテーマは「おこしやす 歴史育むふるさとへ いにしえの時空（とき）を越えて、今、伝えたいことがあります」です。

ここ京都をはじめとする桂川水系の地域は、稲作栽培に適した地の利を生かし古くから農耕文化が育ち、そして王朝が生まれ、わが国の中心として栄えた地域であります。

約1200年にわたって都を支えてきた地域農業の歴史は、水とのかかわりの歴史でもありました。古くは、渡来人秦氏（はたし）が行ったとされる桂川、葛野大堰（かどのおおい）築造に始まり、宇治川の太閤堤の築堤や桂川の開削工事、そして近世における琵琶湖疏水など先人達の幾多の努力によって、今日の地域農業の発展の基盤が築かれてきました。

日本初の国営土地改良となった巨椋池では、戦中・戦後の食糧難の時代に京都の台所を支えるとともに、近年では聖護院大根、九条ねぎなどの京野菜を生産するなど近郊を代表する一大農業地帯となっています。

このような歴史の中で人々は、ある時は共に水と戦い、そしてある時は貴重な水を分け合うことにより、地域の連帯感を育んできました。それはやがて地域社会を形成する基盤となり、鎮守の森の祭りなど様々な伝統文化も創ってきました。

このような先人達のたゆみない努力によって育まれてきた「水」「土」「里」を如何にして守り、次世代へ継承していけばいいのか、今日我々に与えられた課題は極めて重大であります。

国におかれては、新たな「食料・農業・農村基本計画」のもと、来年度から農地や農業用水などの資源を適切に保全するための施策を本格的に導入される予定であります。

この施策は、まさに「水」「土」「里」を地域のコミュニティと共に守り育んでいくためのものであり、地域の方々や関係団体と連携し、我々水土里ネットが中心となって積極的に取り組んでいくべきものであります。

我々水土里ネットでは、平成13年から21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいますが、はや5年目を迎えております。本年度に大賞を受賞される地区を見ても分かりますように、運動の裾野が着実に広がりを見せており、大小様々な水土里ネットが身の丈に応じたユニークな活動を展開し、地域との連携を図りながら活動を行っています。

このような中、平成18年度には、創造運動が土台となって資源保全施策のモデル地区が数多く生まれており、施策の推進の観点からも我々水土里ネットに期待される役割が大変大きなものがあると認識しています。

水土里ネット関係者の皆様方が、それぞれの地域において、これまで培ってきた創造運動の蓄積を活かし、地域資源の保全活動に取り組むとともに資源を守り地域を創っていく中核的組織として飛躍されることを期待するものであります。